

# ソーシャルワーカーの援助と監視に関する現代の特徴

—台湾における少年輔導実践に注目して—

筑波大学大学院 李岱真

## 1 目的

本報告の目的は、現代のソーシャルワーカーが、援助を通じていかにして監視を行っているのかを明らかにすることである。

ソーシャルワーカーの監視について論じたレスリーマーゴリンは、ソーシャルワーカーが登場したことによって、プライベートな空間である家庭を国家が直接監視することができるようになったことを明らかにした。そして、「ソーシャルワーカーは、権力を行使している事実を忘却することによって、その活動を続けていることができる」(Margolin 1997=2003:28)と指摘した。

しかしながら、現代のソーシャルワーカーは、専門職化の影響を受けて、自らが有する権力性を強く自覚している点に、マーゴリンとの違いが見られる。本報告では、台湾・少年輔導委員会に所属するソーシャルワーカーの輔導記録表を分析することによって、ソーシャルワーカーの監視とそのメカニズムの現代の特徴について明らかにすることを試みる。

## 2 方法

台湾では、少年が非行をした時に、政府によって全国に設置された少年輔導委員会が、相談活動を行っている。少年輔導委員会に所属するソーシャルワーカーが行う援助は、少年の健全育成を目的とすると同時に、社会秩序を維持する目的も持つ。

本報告では、実務に携わるソーシャルワーカーが作成した少年輔導記録表を素材として、分析を行う。本報告が分析に用いる輔導記録表は、ソーシャルワーカーが少年輔導の実践内容を記述し及び要約し、監督機関へ提出したものである。

## 3 結果

ソーシャルワーカーは、非行可能性を常に意識し、非行に至らないことを第一義的目的として援助を展開していた。非行可能性は、曖昧性を含んだ解釈からなりたっており、非行可能性をめぐる解釈は援助の方向性を影響与えていた。ソーシャルワーカーは、少年が非行可能性を有すると解釈した際に、援助関係を継続していた。また、少年の逸脱行動に対処するため、少年と良い関係を築き、援助関係を維持することを重要視していた。

## 4 結論

以上の分析から、ソーシャルワーク実践は、本人の意思を重要視する援助から、社会的コントロールを重要視する実践へと形を変えていたことが現代の特徴であるとまとめることができる。また、ソーシャルワーカーは少年を監視している主体だけではなく、国家に監視されている客体でもあると考えられる。この点は、リスク社会の影響を受けている可能性があるため、報告当日はリスク論の観点からソーシャルワーカーの監視の現代の特徴を考察する。

## 文献

Margolin, Leslie, 1997, *UNDER THE COVER OF KINDNESS: The Invention of Social Work*, United State : University of Virginia Press (=2003, 中村伸俊, 上野加代子, 足立佳美訳『ソーシャルワークの社会的構築 - やさしさの名のもとに』明石書店.)